

## 近代化する町が抱える問題

**日** 本を出発して約1日、夜と朝を越え、窓の外に見えてきたのはどこまでも広がるサハラ砂漠でした。砂埃舞う褐色の町、スーダンの首都ハルツームに降り立ち、空港のアラビア語の表記が目に入ると、ずいぶんと未知の国にきたなあと感じました。以前はサッカー選手として海外遠征に、現在は、スポーツキャスターとして海外へ取材に行くことを見る機会が、これが初めてです。

スーダンの大きさは日本の約5倍、アフリカでも3番目の大きさで、国土の大半を砂漠が占めています。ウガンダから流れる白ナイル川、エチオピアから流れる青ナイル川がぶつかる一帯に首都ハルツームが栄え、ナイル川はそこから一つに合流してエジプトへと流れていきます。

をも支配した王国があり、世界遺産になっているピラミッド群があると聞き、驚きました。悠久の歴史を感じさせるスーダンですが、首都は近代的なビルも増え、中東をはじめとする多くの外国企業が進出し、急速に発展しています。

その反面、近代化が進み、首都の人口が増えたことで顕著になった社会問題があります。それは、ごみの増加です。町中の至るところにビニールや廃材、生ごみが散乱し、郊外では、ビニール袋やプラスチックが引っ掛かってクリスマスツリーのような低木がどこまでも広がっていて、あせんとしました。

## 問題解決に日本式の包括的な支援

日本は、2014年からスーダンのごみ問題の解決に向けて、「ハルツーム州廃棄物管理強化プロジェクト」と「ハルツーム州廃棄物管理能力向上計画」という2つのプロジェクトを実施しています。1日に5000トンものごみが発生

## 特別レポート

# スーダンに笑顔を運ぶごみ収集車

元サッカー日本代表でスポーツキャスターの永島昭浩さんが、今年2月、アフリカ大陸北東部のスーダンを訪れた。そこには、近代化に伴い悪化する都市のごみ問題が……。現地の様子をリポートする。



ごみ回収作業員には、モチベーション向上のためにユニホームが支給された。収集車で市内を回り、決まった時間に決まった場所でごみを回収する



スーダンでも大人気の「キャプテン翼」のステッカーが貼られたごみ収集車 ©Yoichi Takahashi / SHUEISHA

になりました。老若男女、知らない人はまずいません。住民にごみ収集について考えてもらうきっかけとして、著者・高橋陽一先生のご協力の下、今回このような試みがなされました。新しいごみ収集車を見つけた人は、大人も子どもも皆、笑みがこぼれます。元サッカー選手として、また、一人のファンとして、「キャプテン翼」がスーダンの廃棄物処理支援や、日本との良好な関係構築に一役買っている現場を見られたことをうれしく思いました。

新しいごみ収集車が導入されてまだ数カ月。将来、ごみのないハルツームに出会えることが、今から楽しみです。スーダン滞在の最終日、地元の少年たちにサッカーを指導する永島さん。基本練習から始まり、最後はゲームで盛り上がった



プロジェクトの石井明男専門家から説明を受ける永島さん

するハルツームでは、ごみ収集車の数が足りず、地域によっては2カ月もの間、収集車が来ないこともあります。そこで、日本はごみ収集車80台を供与し、車両の整備工場も建設したのです。

ハード面の支援だけではありません。現地の車両整備士を育成し、決まった時間に決まった場所でごみを収集する、「定時定点回収」という日本のごみ収集システムをスーダンに導入したのです。日本では当たり前のごみ収集システムですが、スーダンでは新たな試みです。

## 人気漫画がごみ問題解決を後押し

スーダンでは、「参加型廃棄物管理」という廃棄物処理の実践を目指していま

す。これは、日本のように、住民自らが決められた時間にごみをごみ置き場まで運ぶ方法です。「このような行動を通して、住民にごみ処理は住民の責任である」という自覚を徐々に持つてもらおうとを目指しています」と、プロジェクト専門家の石井明男さんが話してくださいました。難しい問題だからこそ、やりがいがあるとおっしゃるその姿が頼もしく映りました。



少年たちにサッカーの指導をする永島さん。基本練習から始まり、最後はゲームで盛り上がった

ちにサッカーを指導する機会に恵まれました。彼らは、日本のNPO法人「ロシナンテス」が長年にわたって支援してきたサッカー少年たちです。プレーは荒削りではあるものの、一人一人から「うまくなりたい!」という強い気持ちがピシビシと伝わってきます。私もその思いに応えるべく、真剣に向き合ったつもりです。たくさんの方の可能性を秘めた彼らの将来が明るいものであることを祈らずにはいられません。

永島 昭浩 (ながしま あきひろ)  
1983年、松下電器産業(現パナソニック)に入社。Jリーグ開幕した93年に、日本人初のハットトリックを達成。その後、清水エスパルスやヴィッセル神戸で活躍。2000年の現役引退後は、JFAアンバサダーとしてサッカーの普及活動に尽力。現在は、スポーツキャスターとしてテレビトークショー、講演会などで活躍する傍ら、サッカースクールなどで後進の指導に携わる。